

問1 江戸時代に志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印や、3世紀の歴史書に記された卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かったという記述は、当時の日本と中国のどのような関係を示していますか。（2021年 茨城県公立入試 類似）

1. 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係
2. 日本が中国の王朝に対して軍事的な圧力をかけ、金印や称号を無理やり奪い取った関係
3. 中国の皇帝が日本の優れた統治体制に学び、日本の王に中国の政治顧問を依頼した関係
4. 日本と中国が対等な立場での自由貿易を約束し、称号の交換を経済的な儀礼とした関係

問2 弥生時代に大陸から稲作が伝わると、収穫のための道具として磨製石器の一種が広く使われるようになりました。中央に2つの小さな穴が開いた半月形の形状をしており、稲の穂先のみを摘み取るために使用されたこの道具の名称を選びなさい。（2024年 秋田県公立入試 類似）

1. 石包丁
2. 鉄鎌
3. 磨製石斧
4. 尖頭器

問3 弥生時代の社会の変化について述べた文として、当時の集落のあり方や道具の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2024年 沖縄公立入試 類似）

1. 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。
2. 縄目の文様がある厚手で黒褐色の土器を使用し、主に狩りや採集を行って生活した。
3. 仏教の伝来とともに巨大な前方後円墳が造られ、集落の形が大きく変化した。
4. 堅穴住居が並ぶ大規模な集落が形成されたが、外敵を防ぐための堀などは作られなかった。

問4 弥生時代に作られた青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面に流水などの幾何学模様が施されている祭祀の道具を何というか。（2026年 新潟公立入試 類似）

1. 銅鐸
2. 銅鏡
3. 銅剣
4. 石包丁

問5 弥生時代に大陸から日本列島へ伝わった金属器の特色について、銅鐸の性質をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）

1. 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった
2. 青銅器は、鉄器よりも硬く鋭いため、主に開墾用の農具や実戦用の武器として普及した
3. 銅鐸に代表される青銅器は、古墳時代になってから初めて製作され、巨大な墓に副葬された
4. 銅鐸は文字を記録するための道具として開発され、当時の律令制度を庶民に伝えるために使われた

問6 鳥取県の青谷上寺地遺跡などの出土品をまとめた資料では、木製品や骨角器とともに、石器、金属器、そしてこの時代の特徴的な土器が並んで示されています。これらの道具が併用されていた弥生時代の土器に見られる、縄文土器と比較した際の外見上の特徴として、最も適切なものはどれか。（2016年 鳥取公立入試 類似）

1. 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である
2. 表面に縄目のような力強い文様がつけられ、全体的に厚手である
3. 青灰色をしており、非常に硬く焼かれた朝鮮半島由来の技術で作られている
4. 仏教の儀式に用いるために、表面に金色の装飾や仏像が描かれている

問7 当時の日本（倭）では多くの小国が分立して争いが続いていたことが中国の歴史書に記されています。このような状況下で、邪馬台国の卑弥呼が魏に使節を送り、皇帝との外交関係を築いた主な目的は何ですか。（2019年 広島公立入試 類似）

1. 魏の皇帝から倭王としての国際的な承認を得ることで、国内の他勢力に対して優位に立ち、支配を安定させるため
2. 大陸で広く信仰されていた仏教を日本に導入することで、宗教の力によって国内の戦乱を鎮めるため
3. 魏が定めていた律令などの法律や官僚制度を取り入れ、天皇を中心とする中央集権国家の仕組みを整えるため
4. 魏の進んだ鉄器製造技術を独占することで軍力を高め、武力によって一気に日本列島を統一するため

問8 福岡県の志賀島で発見された、金で作られた「漢委奴国王」の印（金印）が示している歴史的事実として適切なものを選んでください。（2021年 神奈川県公立入試 類似）

1. 倭の奴国の王が中国の漢（後漢）へ使いを送り、皇帝から王の地位を認められた。
2. 邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から親魏倭王の称号と銅鏡を授けられた。
3. 聖徳太子が小野妹子を隋に派遣し、中国と対等な外交関係を築こうとした。
4. 日本が中国の進んだ制度を取り入れるために、多くの留学生を伴う遣唐使を派遣した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めらう関係	1世紀には奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かり、3世紀には邪馬台国の卑弥呼が魏から「親魏倭王」の称号と金印などを授かりました。これらは、中国の皇帝から「位」を認めてもらうことで、国内の他の勢力に対して自らの権威を誇示しようとした外交の形を証明しています。
問2	答え 1 石包丁	弥生時代に稲作が本格化する中で、収穫用具として石包丁が誕生しました。石を磨いて作られた磨製石器で、穴に紐を通して指に固定し、手のひらで包むようにして稲の穂を一つひとつ摘み取る「穂首刈り（ほくびがり）」が行われました。のちの時代に鉄製の鎌が普及するまでは、この石包丁が収穫の主役でした。
問3	答え 1 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。	弥生時代は、稲作の普及に伴い金属器（鉄器・青銅器）や、縄文土器に比べて薄くて硬い弥生土器が使われ始めました。社会構造の変化により、争いから身を守るための環濠集落が築かれたのがこの時期の大きな特徴です。縄目の文様がある土器や、防御施設のない大規模集落（三内丸山遺跡など）は主に縄文時代の特徴です。
問4	答え 1 銅鐸	弥生時代には大陸から金属器の技術が伝わり、青銅器と鉄器がほぼ同時に使われ始めました。青銅器のうち、釣鐘の形をした銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、豊作を祈るための祭りの道具として用いられたと考えられています。
問5	答え 1 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった	弥生時代には、青銅器と鉄器がほぼ同時に大陸から伝わりました。実用的な道具として、鋭利な刃物が必要な武器や工具には「鉄器」が主に使われた一方で、光沢があり希少な「青銅器」は、銅鐸や銅鏡、銅剣（儀礼用）のように、祭礼や集落の権威を示すための道具として使い分けられました。銅鐸は特に稲作の豊穰を願う集落の共同祭祀に深く関わっていました。
問6	答え 1 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である	弥生土器は、装飾が豊かだった縄文土器と比較して、表面に細目の文様が施されるなどデザインが簡素化され、調理や貯蔵に適した薄くて機能的な形状へと変化しました。青谷上寺地遺跡のように、金属器や木製品など多様な道具が登場した背景には、稲作を中心とした計画的な生産活動への移行があります。
問7	答え 1 魏の皇帝から倭王としての国際的な承認を得ることで、国内の他勢力に対して優位に立ち、支配を安定させるため	弥生時代の日本列島は、多くの小国が争う「倭国大乱」と呼ばれる混乱期にありました。卑弥呼は、大陸の強国である魏から公式に「倭の王」として認められることで、自らの地位の正当性を高めようとした。授かった金印や銅鏡を国内の有力者に分け与えることは、自らの権威を可視化し、他の小国を従わせるための高度な外交手段でした。なお、仏教の伝来や律令の導入は後の飛鳥時代以降の出来事です。
問8	答え 1 倭の奴国の王が中国の漢（後漢）へ使いを送り、皇帝から王の地位を認められた。	中国の歴史書『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が光武帝に使いを送り、印綬を授かったという記録があります。志賀島で見つかった金印はこの記述を裏付けるものであり、当時の日本の小国の王が、中国の皇帝に貢ぎ物を送ることで、自分の支配権を公認してもらおうとした国際関係を示しています。